

**立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）**  
**大学院生研究**  
**2008年度研究成果報告書**

<b>研究科名</b>	立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科 比較組織ネットワーク学専攻		
<b>指導教員</b>	所属・職名		氏名
	21世紀社会デザイン研究科 教授		印
<b>自然・人文の別</b>	自然 ・ <input type="checkbox"/> 人文 <input checked="" type="checkbox"/>	<b>個人・共同の別</b>	<input type="checkbox"/> 個人 <input checked="" type="checkbox"/> 共同 名
<b>研究課題名</b>	多文化社会における留学生政策の考察 ～日本社会の接点との視点から～		
<b>研究代表者</b>	在籍研究科・専攻・学年		氏名
	21世紀社会デザイン研究科 比較組織ネットワーク学 後期課程2年		原田麻里子 印
<b>研究組織</b>	在籍研究科・専攻・学年		氏名
<b>研究期間</b>	2008年度		
<b>研究経費</b>	200 千円		

**研究の概要** (200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

多文化共生政策という枠組みの中で、留学生受け入れがどのような役割を果たしているのか、日本社会にいかなる波及効果を生み出すのかについて

I. 就職による日本企業社会による受け入れ

II. 定住化にむけた地域社会による受け入れ

二面から多文化社会における留学生について考察することを目的とし、主に以下について研究を進めた。

①留学生の積極雇用を予定する企業ヒアリング ②就職予定の留学生ヒアリング  
 (予備調査) ③韓国の留学生受け入れ事情調査(現地調査)

④定住のテーマとしての防災と留学生について ⑤調査および分析手法の検討

**キーワード** (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[ 留学生 ] [ 就職 ] [ 地域社会 ]

**研究成果の概要** (図・グラフ等は使用しないこと。)**2008 年度研究成果概要**

2008 年度当初の研究計画では、多文化共生政策という枠組みの中で、留学生受け入れがどのような役割を果たしうるのか、日本社会にいかなる波及効果を生み出すのかについて

I. 就職による日本企業社会による受け入れ

II. 定住化にむけた地域社会による受け入れ

二面から多文化社会における留学生について考察することを目的とし、研究を進めてきた。

1. 2007 年度は、『多文化共生』というキーワードについて研究を進め、2008 年度は『移民』というキーワードについてその定義や背景、他国の状況などについて、文献研究や、研究会等の参加により考察を行った。

研究のフィールドとして、まだ確立されていない、比較的新しい分野であるため、語彙の定義付けが難しいと感じている。この点については、博士論文執筆の基礎として、次年度以降も引き続き、研究・考察をきめ細かく進める必要性が高い。

2. 留学生の雇用を予定している人事担当や関係諸機関へのヒアリング、就職セミナー等への参加を通じて、留学生の就職の現状や企業のニーズ把握を行った。

3. 就職を視野に入れている留学生自身からのヒアリングを行った。これは、来年度以降に実施を検討する、インタビュー調査のための予備調査として、就職への意識を含め、ライフストーリー・インタビュー形式で実施した。

4. 海外事例として、韓国の外国人政策および、留学生受入れ政策について、調査、考察を行った。

① 文献研究… 先行研究および資料に基づき、近年急激に変化している政策面をあたった。

② 現地調査… 政府主導といわれる韓国の外国人政策について、現地フィールド調査を実施。また、韓国における国際交流・政策形成の従事者との議論の機会を得た。

③ 留学生政策資料収集… 延世大学を中心として異文化体験調査を実施し、帰国後、資料を現地から収集。

韓国の事例研究については、研究者自身の研究にどのように引用していくかは未定であるが、先駆的事例として次年度以降も考察を続けたい。

5. 定住化にむけた地域コミュニティとの関係の視点から、「留学生と防災啓発」について自らが実施した防災セミナーをベースに、文献や他の事例研究を含め、考察行い、査読付論文を投稿した。

6. 調査及び、分析の手法について、適切な調査方法や分析手法を決定するため、文献購読および、先行研究にあたった。研究者自身の知識の不足により、今後この点については、早期に方向性を確立すべき、研究を進める必要性がある。

## 研究成果の概要 つづき

2008 年度研究のまとめと今後の計画

上記の研究を進める中で、日本における外国人政策は、『多文化共生』『移民受け入れ』のキーワードのもと、昨今社会的注目度が高まりつつあるものの、現状を正しく把握しニーズに対応した方向性が打ち出されているとは言い難い状況であることが明らかになった。また留学生の就職についても、政府の施策や今後の展望と企業や大学の現場在住外国人には依然、距離があると言えた。同時に、留学生の定住化志向が高まっていることが再確認できた。

当初は、国や自治体の政策、具体的施策の実施事例などを中心に研究を行う予定をしていた。しかし本年度の研究を進める中で、留学生個人個人に着目し、彼らの意識変化と今後の希望を丁寧に把握することの必要性を強く感じるようになった。そこで、本研究の方向性を、日本に留学を目的に来日した外国人が、留学生活を経て日本への定住化をする過程において、どのような内的、外的要因が影響し、彼らのライフプランを決定付けているのかを明らかにする事としたい。特に、ライフプランの形成過程において、地域コミュニティとの関わりはどのような影響を及ぼすのか、地域コミュニティが果たせる役割は何であるのかという視点から今後考察していきたい。